



TITLE:

1. まえがき

AUTHOR(S):

黒河, 宏企

CITATION:

黒河, 宏企. 1. まえがき. 花山天文台70年のあゆみ 1999: 1-1

ISSUE DATE:

1999-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/241441>

RIGHT:

1. まえがき

京都市東山山系を越えた花山山頂に花山天文台が創立されて以来、本年で70周年を迎えました。大正時代の急激な近代化によって、京都市内の空が明るくなった為に、京都大学本部構内にあった天文台の移転が計画され、昭和2年の夏に2kmの「花山道路」（現在の東山ドライブウェイ）が開かれ、昭和4年に花山天文台が設立されたものです。創立当時の状況については、初代台長の山本一清先生が、「天界」第百三号第九巻に詳しく書いておられますが、その巻頭言には「ここに新しい学術の力が加はる。國のためにも社會のためにも、大に祝福しなければならない」とあります。また一方では、「欧米の學界に活躍する優秀機に比べると、なかなか以て御祝ひ氣分にのみなつては居られないのである。只、此等の機械能力の不足を人の努力によって補へるだけ補ひ、尚ほ其の上は他日の大發展に待たねばならない。」とも書いておられます。

以来この精神を引き継いだ多くの先達によって、天空へのあくなき探求心と開拓精神がこの舞台の内外で発揮され、天文学へのさまざまなかたちの貢献がなされてまいりました。

特に、戦中戦後の最も困難な時期に献身的な観測と装置開発を続けられ、貴重な成果を挙げて、戦後の復興につないでこられた方々のご努力は大変なものであったと思われます。

昭和33年（1958年）には、花山天文台と生駒山太陽観測所が宇宙物理学教室から分離統合され、理学部附属天文台として官制化されました。この当時から台長になられた宮本正太郎先生を中心として、月惑星研究、太陽研究などが盛んに行なわれ、花山天文台の戦後の復興が軌道に乗りました。更にそのエネルギーが、新天文台建設計画へと発展して、昭和43年には、飛驒天文台が新しい観測の最前線として岐阜県上宝村に設立されました。

最近の花山天文台では、太陽活動現象の研究観測を重点的に行うとともに、天体画像解析システムの開発と、それによる飛驒天文台や人工衛星その他の天文台で得られた観測データの総合的解析を行い、大学院学生及び学部学生に対する観測及び解析の実習教育に力を注いでおります。昨年に創立30周年記念事業を行った飛驒天文台とともに、力を合わせてこの度の70周年を迎えることが出来たのも、ひとえに、文部省、京都大学をはじめとする多くの関係者の長年にわたるご尽力とご支援のおかげであります。

この70周年を大きな節目として、飛驒天文台とともに、更に新しい研究課題に挑戦し、天文学・宇宙科学の教育研究を進展させることによって、人類社会に貢献していきたいと考えております。このような思いの下に、創立当時の精神と多くの先達の足跡にあらためて学び、決意を新たにするために、この小冊子を作成致しました。もとより限られた時間と紙面の中でまとめましたので、長いあゆみを網羅することは出来ませんが、特に研究成果の紹介に関しましては、短時間に調べることの出来た範囲のものに限らせて戴きました。思い出話や研究成果など、近くでお会いした方々にお願いしましたところ、快くご執筆を戴きまして有り難うございました。往時を偲ぶことの出来る貴重な写真などとともに、花山天文台70年の活動の一端を、皆様にお届けできましたならば、まことに幸いです。

京都大学大学院理学研究科
附属天文台長 黒河宏企